

# 牧野富太郎と 日本の植物図譜の夜明け

NHKの朝のドラマのモデルとなった牧野富太郎。  
明治から昭和にかけての牧野富太郎の  
業績と共に、江戸時代に日本の植物を  
調べた西洋人や、日本で独自に  
花開いた植物図譜を紹介します。



まきのさん  
高知県立牧野植物園  
CC BY-ND

## 牧野富太郎 伝記と仕事(1)

牧野富太郎は幕末の1862年、高知県で酒屋の息子として生まれた。幼少期に両親と祖父を亡くし、祖母に育てられた。明治時代になり、牧野は寺子屋や郷学で学び、地元の小学校に通い始めたが14歳で退学。幼少期から植物が好きで、植物の採集やスケッチを行っていた。地元高知で植物を観察・採集することで知識を深め、また高知県立師範学校の教師・永沼小一郎との出会いも彼の植物学への関心を高めた。

20歳で初めて東京に行き、各地の植物を採集しながら高知に戻る。その後再度上京し、東京大学の植物学教室に出入りし、研究を行った。1887年、26歳の時に初めての論文を発表。植物の採集・観察・研究を重ね、多くの新種を発見し、名前をつけた。

## 牧野富太郎 伝記と仕事(2)

牧野の業績の一つは日本の植物図のレベル向上に貢献したことである。1888年、『日本植物志図篇』の出版を開始したが、完成させることはできなかった。しかし、その後も研究を続け、論文を発表し、『新撰日本植物図説』や『大日本植物志』などを出版した。

牧野は植物採集の趣味を一般の人に広めるため、同好会の設立や指導、植物研究雑誌の創刊なども行った。1911年に立ち上げた「東京植物研究会」は現在も続いている。1925年には『日本植物図鑑』が出版され、1939年には『牧野日本植物図鑑』が完成。その後も図鑑や随筆を執筆した。1957年に96歳で亡くなり、その直後に文化勲章が授与された。牧野の図鑑は今も改訂を重ねながら読み続けられている。

## 日本の植物を研究した西洋人

日本の植物を最初に世界に紹介したのは日本人ではなく、江戸時代に来日したケンペルやツンベルグやシーボルトであった。

ケンペルは1690年に来日、滞在中に江戸で将軍・徳川綱吉に謁見して、歌を披露した。帰国後に出版した『廻国奇観』に500以上の日本の植物名を記述、挿絵も作成した。

ツンベルグ\*は1775年に来日、約1年間の滞在期間に800以上の植物を採取・記載した。自分で集めた標本や図の他、ケンペルの残した資料も参考に研究し、『日本植物誌』を出版、日本の植物を世界に紹介した。

\*ツェンベルク、ツェンベリ、トウエンベリなどとも呼ばれる

シーボルトはツンベルグの約50年後に来日した。鳴滝塾設立、日本人の妻と子どもを持ったことなどでも知られている。1828年にシーボルト事件が起こり、国外追放となったが、欧州に戻ってからも研究を続け、『日本』や『日本植物誌』を出版した。

## 江戸の植物図譜

江戸時代には「本草学」と呼ばれる学問が盛んであった。これは薬草や生物、鉱物を研究し、形態や効能を記録する学問で、医学と密接に関連していた。図を使うことで薬効や毒性を正確に伝えられるため、多くの図譜が作成された。

また、将軍や藩主たちは日本全体や各地の物産、動植物を調査させた。『諸国産物帖』などの書物も作られ、大名たちは自ら絵を描いたり絵師を雇ったりして動植物図を作成した。このような動きにより、武士だけでなく一般の庶民の間でも動植物や図譜に対する関心が高まった。

さらに、江戸時代には園芸ブームが起こった。人々は珍しい花や変わった形をした葉などを愛で、未知の植物を探し求めた。園芸書も多く出版され、執筆者は本草学者や医者だけでなく、大名や公家、武士、僧侶、植木屋、職人、農民など多岐にわたった。

<参考文献一覧>

- ・牧野植物随筆(講談社学術文庫；1543) /牧野富太郎 [著].講談社, 2002.4 (5008)
- ・牧野富太郎自叙伝(講談社学術文庫；[1644]) /牧野富太郎 [著].講談社, 2004.4 (5768)
- ・牧野富太郎：私は草木の精である(平凡社ライブラリー；388) /渋谷章著.平凡社, 2001.3 (289/415)
- ・牧野富太郎：雑草という草はない(別冊太陽 [日本のこころ；306]) / [竹内清乃ほか編集].平凡社, 2023.4 (289/541)
- ・植物随筆我が思ひ出(遺稿) /牧野富太郎著.北隆館, 1958.1 (470/12)
- ・原色世界植物大図鑑. 北隆館, 1986.4 (470/143)
- ・牧野富太郎：なぜ花は匂うか(Standard books) /牧野富太郎著.平凡社, 2016.4 (470/154)
- ・シーボルトと日本の植物：東西文化交流の源泉(恒和選書；5) /木村陽二郎著. 恒和出版, 1981.2 (470/61)
- ・原色精密日本植物図譜 /シーボルト著. 講談社, 1984 (470/84)
- ・ファール植物記 /ファール著/日高敏隆, 林瑞枝訳.平凡社, 1984.11 (470/86)
- ・植物図譜の歴史：芸術と科学の出会い /ウィルフリッド・ブラント著；森村謙一訳.八坂書房, 1986.6 (470/93)
- ・野の草の手帖：彩色図版と文献例とてつづる草の歳時記 /尚学図書言語研究所編.小学館, 1989.4 (472/61)
- ・重訂本草綱目啓蒙 /小野蘭山著；正宗敦夫編纂校訂. 日本古典全集刊行会, 1929 (918/87/132~135)
- ・牧野富太郎の植物学(NHK出版新書；696) /田中伸幸著. NHK出版, 2023.3 (S4/22531)

<参考webサイト>

- ・江戸の花だより(国立公文書館webサイトより)  
<https://www.archives.go.jp/exhibition/digital/hana/index.html>
- ・近代日本人の肖像「牧野富太郎」(国立国会図書館webサイトより)  
<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/328/>
- ・高知県立牧野植物園  
<https://www.makino.or.jp/>
- ・長崎大学附属図書館医学分館所蔵 近代医学史関係資料「医学は長崎から」(長崎大学附属図書館webより)  
<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/siryu-search/ecolle/igakushi/index.html>
- ・日本植物研究の歴史：小石川植物園300年の歩み(東京大学総合研究博物館データベースより)  
[http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DKankoub/Publish\\_db/1996Koishikawa300/index.html](http://umdb.um.u-tokyo.ac.jp/DKankoub/Publish_db/1996Koishikawa300/index.html)

## <展示資料一覧>

### 新牧野日本植物圖鑑

牧野富太郎著；前川文夫，原寛，津山尚補遺および編集，北隆館，1961.6 (470/72)

### 牧野富太郎：雑草という草はない(別冊太陽 [日本のこころ；306])

平凡社，2023.4 (289/541)

### ケンペルとシーボルト：「鎖国」日本を語った異国人たち

(日本史リブレット人；062)

松井洋子著，山川出版社，2010.9 (281/118/62)

江戸時代に来日した外国人たちと、日本での活動、帰国後の著作とその影響などを解説。展示の扉絵は、将軍綱吉の前で「ドイツの恋の歌」を披露するケンペル。

### 江戸の動植物図：知られざる真写の世界

朝日新聞社編，朝日新聞社，1988.10 (460/273)

江戸時代に様々な目的で描かれた動植物図。ここでは、自ら菜園を持ち、薬用植物の観察・写生を行った森野藤助の『松山本草』を紹介。この菜園は現在も「森野旧菜園」として公開されている。

**四季草花譜：飯沼慾齋「草木図説選」** (博物図譜ライブラリー；1)  
飯沼慾齋[画]/木村陽二郎解説, 八坂書房, 1988.10 (460/274)

江戸時代の代表的な植物図譜に挙げられる飯沼慾齋の『草木図説』。  
慾齋自身が実際の植物を観察し描いた。原図はカラーだが、出版されたものは予算の関係でモノクロとなった。

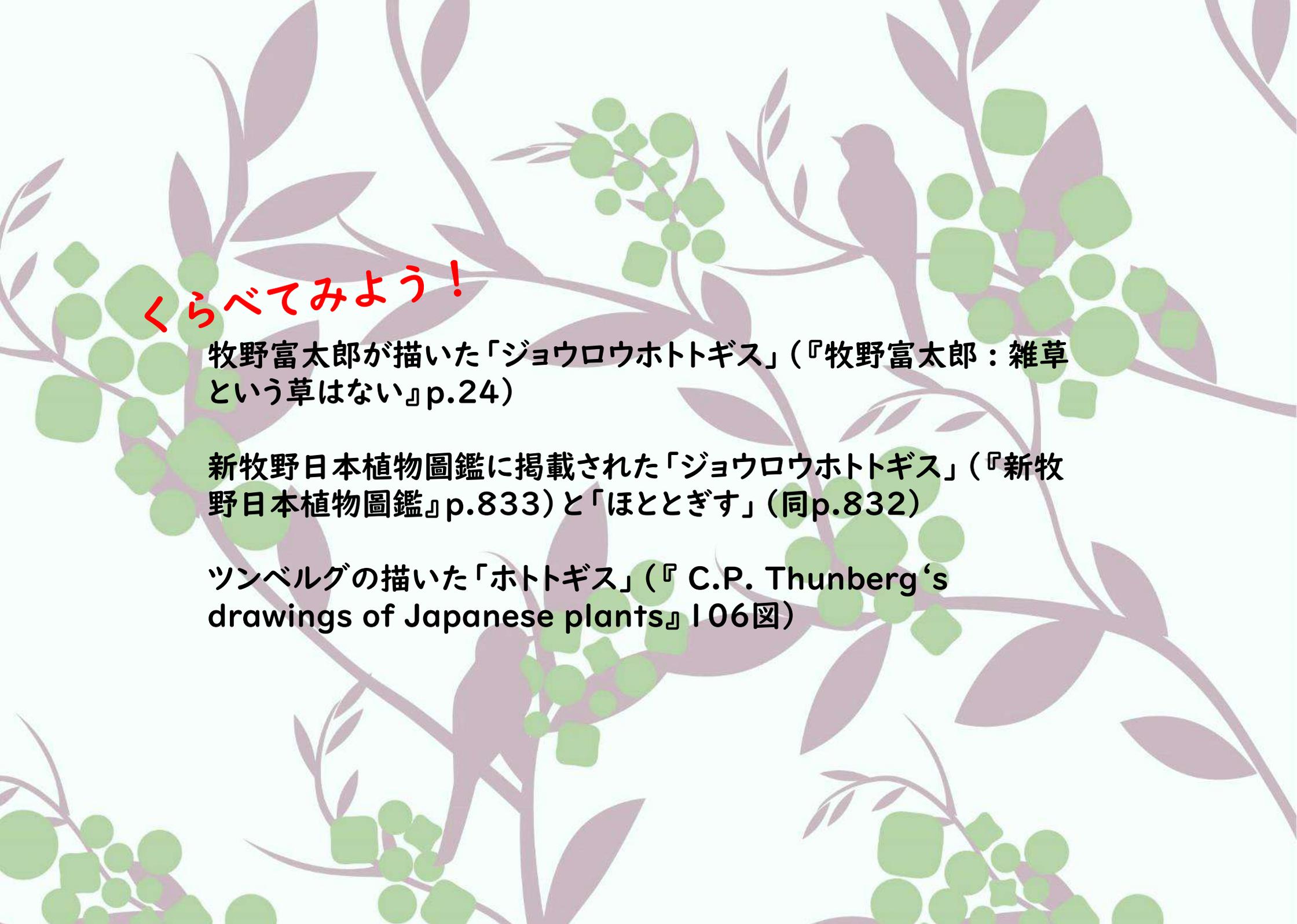
**シーボルトと日本の植物：東西文化交流の源泉** (恒和選書；5)  
木村陽二郎著, 恒和出版, 1981.2 (470/61)

**C.P. Thunberg's drawings of Japanese plants :  
icones plantarum japonicarum Thunbergii** [C.P.ツンベルグが描いた日本の植物]  
[C.P. Thunberg]/edited by Y. Kimura and V.P. Leonov, Maruzen, 1994  
(472/67)

ロシア科学アカデミー図書館が所蔵するツンベルグの未刊行の植物図。  
ロシアの植物学者で東アジアの植物の権威マキシモヴィッチ博士が書いた研究ノートが添えられている。

**描かれた動物・植物：江戸時代の博物誌：国立国会図書館特別展示**  
国立国会図書館編集, 国立国会図書館, 2005.1 (460/370)

2005年に国立国会図書館で開催された特別展示の図録。古来日本にある植物だけではなく、変異した花や葉、海外から持ち込まれた植物についても多くの図版が作られた。



くらべてみよう！

牧野富太郎が描いた「ジョウロウホトギス」(『牧野富太郎：雑草  
という草はない』p.24)

新牧野日本植物圖鑑に掲載された「ジョウロウホトギス」(『新牧  
野日本植物圖鑑』p.833)と「ほととぎす」(同p.832)

ツンベルグの描いた「ホトギス」(『C.P. Thunberg's  
drawings of Japanese plants』106図)